

【確定版】第4回 よこすか障害者計画等検討部会議事録

日 時：令和2年（2020年）9月18日（金）15時00分から16時40分

会 場：横須賀市職員厚生会館 4階第3研修室

出席委員 笹田部会長、市川職務代理者、小澤委員、海原委員、北岡委員、五本木委員、三瓶委員、
立石委員、山邊委員、佐藤委員、山田委員、富澤委員

欠席委員 奥津委員、脇委員

事務局 障害福祉課 網代係長、宮川主任、大森、こども家庭支援課 高橋係長

議 題 第3回 よこすか障害者計画等検討部会議事録について ほか 別紙次第のとおり

配布資料 別紙次第

審議概要

1 開会、資料確認、定数報告、傍聴人数報告

- ①事務局（網代係長）が司会となり開会した
- ②配布資料を確認した
- ③定員数14名中、12名の出席があり、会議が成立している旨を報告した
- ④5名から傍聴の申し出があり、全員の傍聴を許可した旨を報告した

2 議 事

（1）第3回 よこすか障害者計画等検討部会議事録について

- ①笹田部会長より議事録について確認が行われた
- ②各委員からは、意見はなかったため議事録は確定した

（2）横須賀市障害とくらしの支援協議会からの意見について

- ①横須賀市障害とくらしの支援協議会（以下、「自立支援協議会」とする）の会長である海原委員より、資料2に基づき説明が行われた
- ②各委員より次のような質疑が行われた

【立石委員】

資料2の5ページの1-10「発達障害者支援センターの設置」について、当事者として意見を付け加えたい。KANACがあったときに受け付けていた相談は三浦半島全域であったが、大半は横須賀市民からだったと聞いている。中核市は独自に政策がとれるし、横須賀市は発達障害のニーズが高いので、ぜひ設置してほしい。

【市川職務代理者】

自立支援協議会からの提案、意見は、今回の素案（資料3-1）に反映されているのか。

【事務局】

一部は取り入れている。資料3-1を説明する際に報告する。

(3) よこすか障害者計画等(素案)について

- ①事務局より資料3に基づき説明が行われた
- ②各委員より次のような質疑が行われた

【市川職務代理者】

資料3-1の57ページの「障害者福祉の推進基盤の整備」について、本文や主な施策で「障害とくらしの支援協議会の運営」とあるが、市内には当事者や家族、支援者の団体がある。すべての団体が自立支援協議会とつながっているわけではないが、障害福祉課ではそういった団体とも連携をしている。自立支援協議会の運営だけでなく、市内にある様々な団体と連携する旨を記載してほしい。

【海原委員】

市川委員の意見に賛成だ。自立支援協議会だけで様々なことは決められないし、柔軟に動けない。地域福祉の推進であるなら、市内の当事者団体との連携というものが必要だと思う。当事者団体を取りまとめるのが自立支援協議会だと思うが、会長としては、今の自立支援協議会にはとりまとめる力が不足していると思う。

【立石委員】

自助グループのようなところがあるが、自分達の不満を解消するだけの場になってしまっている。グループでは、行政に働きかけることをルールで禁じているので、1年に1回でも構わないので、要望を伺ってもらうことが必要だと思う。この点について、海原委員にご意見を伺いたい。

【海原委員】

自立支援協議会の運営は、障害者団体の話を伺って課題を抽出して議論するところまでは至っていない。現在の自立支援協議会で行っていることは限定的なので、様々な団体と連携をどうしていくのかを施策に記載しないと、連携ができなくなると思う。

過去の障害者計画には当事者団体、施策検討連絡会との連携といった記載があった。そういった人、団体も自立支援協議会に参加しているので、まとめて記載したのだと思うが、当事者等との連携を明記して、そのような意識を行政が持つことも必要だと思った。

【五本木委員】

資料3-1に、アンケート調査で抽出した課題が反映されているのか疑問だ。移動支援のニーズが高いにも関わらず、見込量が3年間同じになっている。予算ありきの数字になっているのか、もしそうであるなら何故アンケート調査をしたのか繋がらない。

【笹田部会長】

市川委員から追記の意見が出ていたが、次回までに事務局が素案を作り直すことは可能か。

【事務局】

計画推進の中心は当事者であると考えている。そのため85ページの「7章 計画の推進体制等」の「(1) 実施体制」に「市が中心となり、関係機関、障害当事者等と連携を図りながら、総合的かつ効果的な計画の実施を図ります。」と記載した。連携について、57ページにも追記した方がよろしいか。

【笹田部会長】

58ページの「主な施策等」の表に追記した方が良いのではないか。

【事務局】

連携については施策ではなく手法なので、追記するのであれば本文になる。事務局としては「7章 計画の推進体制等」に明記している内容で足りると思う。

【五本木委員】

この計画は、当事者が読むことを前提にしている。58ページだけを読むと、「障害者福祉の推進基盤の整備」の施策は自立支援協議会の運営だけという印象を持ってしまう。当事者団体も含まれていると理解してもらえるのだろうか。

【事務局】

連携は市の施策ではないので、「主な施策等」の表に追記はできないが、対応はしたい。

【笹田部会長】

57ページの文言を修正して、次回に案を提出してもらってよろしいか。

【事務局】

障害者団体に加入していない方もいるので、当事者を大事にするという表現で盛り込みたいが、いかがだろうか。

【市川職務代理者】

当事者のための計画だが、知的障害者なら家族が支援を担っていたり、幅広い障害程度の方がいるので、当事者だけではなく家族や支援者も同じ立場だと思っている。団体に加入していない方もいるならば、「障害当事者等」「障害当事者の団体等」と少し広めにいれてほしい。

【事務局】

事務局の中で検討して、次回お示ししたい。

【笹田部会長】

五本木委員からの意見についてはいかがでしょうか。

【事務局】

移動支援は過去の実績を見ると減っている。しかし、ニーズがあることはわかっているが提供ができていない。障害福祉計画の見込量に盛り込んだからと言って、供給量が増えるわけではない。

移動支援が足りないという方々の話を聞くと、施設への送迎時に使えないと言っている。通所は送迎時間が重なるので、予約がとりづらくなっている。移動支援が足りない、ということは送迎の問題であると結論をつけ、「送迎体制について」という文言を施策の方向性に記載することで、地域の支援者に送迎加算の取得の促しを考えている。

【五本木委員】

前回の計画策定時にも同じことを話した。見込量が下がっている、もしくは平行という数値だけを当事者が見ると、足りていなくて困っているしアンケートにも書いているのに数値が増えないのか疑問に思う。私は会議に参加しているので送迎の問題や移動支援の現状は分かるが、当事者は計画に反映されていないと思ってしまう。

【笹田部会長】

改めて、事務局の見込量の考え方を説明してほしい。

【事務局】

見込量は、予算に不足が生じないように正確な数値を見込むことが大事だ。移動支援は、本来は実績として下がっているが、需要が高く供給が不足しているので横ばいという考え方である。

その代わりに、送迎を推奨することで、通所が困らないようにしたいと思っている。

【海原委員】

移動支援の見込量の横ばいとの関連も「送迎体制の充実」に記載してほしい。事務局の説明を聞けば、アンケート結果で出てきた課題をすべて解決はできないが、代替としてこういった施策を提案するということが分かる。しかし、読む人は説明を聞けないので、文章上に記載がなければ分からない。

今の説明を聞けば分かったが、私も五本木委員と同じで、アンケート調査をした意味が見えなかった。軽度の知的障害者が増えているので、そういった方への支援をどうするかが見えてこない。見せ方の工夫が必要だと感じた。

【立石委員】

39 ページの1-2「地域生活への移行の推進」に「移行を進めるためには（中略）グループホーム等の生活の場の確保が課題」とあるが、グループホーム以外にも公営住宅や民間のアパート等の具体的な方法はあるのか。

精神障害により医療保護入院や措置入院となる際、着の身着のまま強制的に入院させられてしまう

ので、何の準備もできないまま入院してしまう、待遇がひどい。家族に理解者がいない場合、縁が切れてしまう。その場合、グループホームだけでは人数が足りないし、市営住宅の提供が必要になると思う。そうなると思金や礼金を用意しなければならないが、どう考えているのか。

【事務局】

住まいについては、障害者施策で対応できるものと、それ以外の部分がある。例えば金銭面は生活困窮の支援になる、公営住宅は障害者については優遇倍率となる。

グループホーム等と記載したのは、退院する際に病院の相談員と検討しながらグループホームに入居するケースが多いからだ。もちろん、ひとり暮らしができる方は、グループホームを利用しないが、それはケースバイケースだ。その人にあった制度を利用しながらやっていくと思う。

【立石委員】

お金がない場合は、生活福祉課と連携してもらえるのか。

【事務局】

病院の相談員がいると思うので、そこが中心になると思う。障害福祉課は主に退院して居宅に戻り、障害福祉サービスを利用することになれば支援が始まる。

【山邊委員】

私もアンケート結果の反映箇所が分からなかった。どういった課題があって、横須賀市が優先順位をつけたり、計画にいれているのか、分かりやすく書かれていた方が良かったと思った。

【事務局】

アンケート結果を反映させたことを、分かりやすく記載する。

【三瓶委員】

アンケート結果をどう反映させたかは、事務局から説明があってやっと理解できる場所があった。送迎や短期入所について、アンケート結果と関連していることを分かりやすく記載した方が良かったと思った。

【市川職務代理者】

これまでの検討部会でもアンケート結果の反映について議題に上がっている。事務局は課題やこういうことができていない、という表現は使いたくないと言っていたが、第3章はアンケート結果を踏まえたということが分かる施策の方向性の書き方にしてほしい。

提案だが、パブリック・コメントまで時間もないので、計画素案の体裁が整った段階で少人数でも構わないのでワーキンググループを作成し、当事者に分かりやすい文章という内容で検討をしたい。

【五本木委員】

市川職務代理者の意見に賛成だ。事前の資料を読み込んでいても、事務局の説明を聞かなければ分から

ないこともあり、会議の時間や回数が限られた中で計画を策定するのは難しい。アンケート結果についてどう反映させるか、見る側が分かりやすいようにするにはワーキングの設置は良いと思う。

【海原委員】

何度か計画検討部会に参加しているが、昔は時間内に話さきれないところは委員が手弁当でワーキングを行っていた。可能であれば呼び掛けてもらい、利用者に反映できるものが作成できると思う。

【事務局】

今回の会議が来月のため、ワーキングを開いて意見をとりまとめてパブリック・コメント案を作成するのはスケジュールが厳しい。

今回は早めに資料を送るので質問だけでなく、意見も事前にいただくようにする。

【海原委員】

例えば、具体的な文章の修正案を送るのか。その場合、修正案を載せるか載せないかは事務局だけの判断になってしまうのか。

【事務局】

いただいた意見は全て公表するし、いただいた意見と事務局の考え方は並記して素案を作成する。なので委員の検討は可能だ。

【海原委員】

第5回の検討部会では、修正案提出後の事務局のパブリック・コメント案に対して意見を言って、その意見が反映できるかどうか検討できるのか。

【事務局】

そのように考えている。今日伺った内容をもとに素案2を作成し、事前に皆さんにお送りする。それについてご意見をいただき、次回の検討部会でお示しして検討してもらおうと思っている。

【市川職務代理者】

自分の考えをうまく文章にできない時、何人かで話すと良い意見が出てくると思う。紙でやる1対1のようなやりとりではない方法をとりたいが、難しいのか。

【事務局】

事前に意見を伺って第5回に向けた資料作成をすると、スケジュールが厳しい。

【笹田部会長】

今後の方針としてアンケート結果を反映させることを念頭に置きながら意見を集約をしていく。集まったワーキングはできないが、紙でのやりとりという方法が提案されているが、いかがだろうか。

【五本木委員】

事務局の事情も分かるが、事前に発言する意見を考えていても、結果的に時間がなくて言えないことがある。文章で意見を送ろうとしても、事務局に趣旨が伝わっているかも、結果が出ないと分からない。当事者としての思いが伝わっているのか、分からない。意見の出し合いをする中で、良い案が出てくることもある。文章だけで事務局に出すだけでは、計画は足りないものになると思う。大勢じゃなくても構わないので、集まる機会を作ってほしい。

【事務局】

検討部会の皆さんから意見を聞くことが前提にあるので、一部の委員から意見を伺うことはできない。

事務局としては具体的に、この部分をこのように変えてほしいと文章を出してほしい。文章が難しければ、電話でも構わない。

【笹田部会長】

集まる方法が一番良いとは思っているが、スケジュール等も考慮すると、事務局から提案された具体的な文章を送るか、電話等をして意見を伝えていくという方法でよろしいか。

【三瓶委員】

精神保健施策の内容を検討したい時、例えば保健所健康づくり課の脇委員のように、他の委員に文言追加の確認しあっても問題はないか。

【事務局】

問題ない。

【笹田部会長】

他に意見もないようなので、事務局から提案された方法で進めていく。

(4) その他

①事務局から、第6回 検討部会の日時、会場が決まったことを報告した。

閉 会

以上